

# 地域学校協働連携NEWS

## ばんこやき かつぞうがま 田島万古焼 勝三窯 ~桧沢小学校~

9月7日(木)、桧沢小学校の陶芸体験取材しました。桧沢小学校では、田島万古焼勝三窯の方を講師に、4年生が体験を行っています。

子供の「誰が受け継いできたのですか?」という質問に、講師の室井さんは、「江戸時代に<sup>しぎやま</sup>礪山城に納めるために作られていたけれど、その後作られなくなりました。昭和50年頃に、勝三おじいちゃんが復活させて、私の夫で3代目になります。」と話されていました。



なめらかにするのが難しかったです。  
うすくなりすぎてしまったけれど、でこぼこしていて、手作り感があってよかったです。  
(桧沢小学校児童)



つくるのが楽しかったです。お母さんはネコが好きなので、ネコ型のスプーンを作りました。喜んでもらいたいです。  
(桧沢小学校児童)



「何か作ってほしいキャラクターはある?」

「秋らしいものを作ったらいいんじゃない。」

子供たち同士で交流しながら、楽しそうに作品作りに取り組んでいました。

### 田島万古焼とは

江戸時代末期、陶工を招き、田島独自の製法で作られたのが始まりとされる陶器です。

一度、戦争が原因で生産されなくなりましたが、戦後に室井勝三さんの手で生産が復活しました。その名を取って「勝三窯」だそうです。

地元(山形県)の山からとれる粘土を使い、手

ひねりで作られるため、1つ1つに違いがあり、とても味わい深いです。「無事帰る」ことを願って、カエルをモチーフにしたデザインは有名です。



三代目 室井さん

体験の前に、児童一人一人に粘土が手渡されました。1kgの粘土に、子供たちは「重い!」「思ったより固い!」と言いながら嬉しそうに触っていました。

室井さんは、きちんとした万古焼の作り方を教えて作らせるのではなく、子供たちが土に触れ、思い思いの作品を作ることを大切にされているようでした。

五感を働かせ、楽しみながら体験をすることができた子供たちは、伝統文化の素晴らしさや受け継いでいくことの大切さについても考えることができたのではないのでしょうか。